

「平成 23 年度博士課程教育リーディングプログラム委員会（第 1 回）」議事概要（案）

1. 日 時：平成 23 年 6 月 6 日（月）13：30～15：30
2. 場 所：霞山会館（霞が関コモンゲート西館 37 階）霞山の間
3. 出席者：（委 員）有信委員、安西委員、猪口委員、内堀委員、笠木委員、金澤委員、金子委員、鎌田委員、岸委員、桐野委員、熊谷委員、佐藤委員、新海委員、清家委員、永山委員、橋本委員、松本委員、室伏委員
（文部科学省）磯田高等教育局長、合田科学技術・学術政策局長、藤原大学振興課長、樋口大学改革推進室長
（事 務 局）小野理事長、小林理事、清木理事、會田監事、小山内研究事業部長、長澤研究事業課長、有菌研究事業課長代理

4. 議事概要

(1) 委員長の選出等について

- ・互選により、安西委員が委員長に選出された。
- ・安西委員長より、副委員長には、川村委員が指名された。
- ・委員会の審議内容等の取扱について（案）[資料 2] に関して、事務局より説明があり、了承された。

(2) 委員会の運営等について

- ・博士課程教育リーディングプログラム委員会規程 [資料 3-1]、博士課程教育リーディングプログラム委員会組織イメージ [資料 3-2]、自己の関係する機関の事案に関する取扱いについて（案）[資料 3-3]、平成 23 年度博士課程教育リーディングプログラム審査スケジュール（案）[資料 4] について、事務局より説明があり、資料 3-3 及び資料 4 については、案のとおり了承された。

(3) 公募・審査の在り方について

- ・博士課程教育リーディングプログラムの事業スキーム [資料 5-1]、「リーディング大学院推進委員会」[資料 5-2]、平成 23 年度「博士課程教育リーディングプログラム」公募要領（案）[資料 6]、審査に当たっての着目点（案）[資料 7] について、文部科学省より説明があり、また、平成 23 年度「博士課程教育リーディングプログラム」計画調書等（案）[資料 8]、平成 23 年度「博士課程教育リーディングプログラム」計画調書等作成・記入要領（案）[資料 9] について、事務局より説明があり、その後、質疑応答が行われた。

審議の結果、資料 6 から資料 9 については、本日出された意見を踏まえた検討を行い、第 2 回プログラム委員会までに修正を加え、再度審議に諮ることとなった。

(主な意見)

- 人材育成する分野に関して、現在の成長分野と、将来的に成長が見込める分野があると思うが、これらをどのように審査をすべきか、ある程度の基準があった方がよい。
- 将来の産業構造の変化にも対応できる人材を育成する必要がある。
- 産業構造の変化だけでなく、社会構造の変化を視野に入れ、これらに対応できるプログラムを採択すべきである。
- このプログラムは、就職者を保証するためのものではなく、大学院生が社会で活躍できる道

筋をつけるのが目的であり、グローバルCOEプログラム等の従来の取組みとは趣旨が異なることを明確にするべきである。

- 審査に当たっての着目点（案）の全ての要件を満たすことは困難である。着目点を平均的に満たすプログラムというのではなく、突出しているプログラムが採択されるようにすべきである。
- グローバル化社会に対応するためには、もっと強く国際性を打ち出す必要がある。審査に当たっての着目点の記述は一般的すぎる。
- このようなプログラムにおいては、教員の意識改革が必要であり、プログラム担当者をはじめ、組織的にプログラムに賛同・協力して取り組む体制を構築できるかが重要である。これまで教育面においてどのような工夫、取組みをしてきたかを審査できるよう調書を見直す必要がある。
- グローバルCOEプログラム等では、教員の教育面や事務的な負担が増大し、協力体制など組織的な継続が困難な面があった。教員の意識改革とともに事務体制等のバックアップがしっかりしたプログラムであることが重要である。
- プログラムの実行には強力なリーダーが必要である。高度な英語力や受入れ外国人に対する支援も重要である。
- 大学院改革に対する積極的なチャレンジを採択できるようなプログラムにすべきである。
- オールラウンド型については、類型の趣旨から見て、申請に当たり、関連の分科を選択・限定させる必要はない。専門分野の審査を行う書面レビュアーが、プログラムにおける大学改革への取組みを理解せずに落とすことのないよう工夫が必要である。
- 改革が大学院のみならず、学部や高校教育にも波及するようなプログラムに期待したい。
- 民間企業は生き残りに対する危機感を持っており、リーダーを日本でどのように育てていくかが重要である。諸外国のシステムにも学ぶべきところがあるのではないかと。また、産学官ではそれぞれ必要なリーダー像が異なるのではないかと。

(4) その他

- ・ 次回の委員会を6月13日（月）10時～12時に開催することとした。